

自然観察指導者育成研修

- 1、活動日 2023年5月27日(土) 晴れ
- 2、場所 入間市「緑の森博物館」
- 3、参加者 原、早川、田崎、毛利、町田、鈴木
- 4、報告者 鈴木翔貴
- 5、概要



講師の高杉さんに自然観察指導者研修を開催して頂きました。先日の野草研修は色々な植物

を知る「面」の研修でしたが、今回の研修はある植物についてじっくりと観察する「点」の研修でした。研修場所である「緑の森博物館」は住宅街に近接しているにも関わらず、緑溢れる気持ちの良い場所でした。敷地内にある管理センターのウッドデッキに座り、研修がスタートしました。

はじめに自己紹介が行われました。ワンダーフォーゲルをされていた方や環境保全に関心のある方、森の管理をされていた方、自然を学ぶことをライフワークとされている方など、森林インストラクター会には様々な背景をお持ちの方が多いなと改めて感じました。

自己紹介の後は高杉さんから研修主旨をお話しして頂きました。以下に研修主旨を記載します。

- 1、森林インストラクターの基本的な資質として植物に関する知識を身につけること。
→プロの意識を持つこと。
- 2、自分のフィールドをもって定点観察を行い、観察記録を積み重ねる。
- 3、自分のフィールドで観察会を行い、ガイド役を経験して、積み重ねた知識を確認する。
- 4、観察記録を図鑑の形に整理する。
- 5、新しいフィールドで植物観察を行い、今まで積み重ねた知識を確認するとともに、新しい自然環境に自生する植物に関する知識を積み重ねる。

昨年と同じ研修に参加させて頂いた後、武蔵丘陵森林公園を定点観察の場所として観察を続けています。いつの日か園内をガイド出来るようになるまで、観察を積み重ねていこうと気持ちを新たにしました。



次に敷地内に自生している植物観察を行いました。ドクダミと各自が選んだ2種類の植物について観察し、観察したことを発表しました。原さんはニワトコ、早川さんはシロダモ、田崎さんはムラサキハナナ、毛利さんはヘビイチゴ、町田さんはセリバヒエンソウ、鈴木はムラサキハナナを選びました。ドクダミについて、「4枚の白い包がある。」「葉の裏に細かい毛が見える。」「葉柄は2cm程度。」「群生している。」「葉はハート型で先が尖る。」「葉の裏は銀白色。」など、様々な視点からの発表がありました。多くの人と植物を観察することで、自分では気が付かなかった点が浮き彫りになると感じました。



ヤブヘビイチゴ



セリパヒエンソウ



同(果実)



ニワトコ



ムラサキハナナ



同(果実)



同(断面)



シロダモ

植物観察会の後は、高杉さんから「キク科の花のつくり」「めしべの柱頭運動」のお話をして頂きました。「キク科の花のつくり」については、オニタビラコ、シュンギク、キツネザミ、ノハラアザミを例にして、舌状花と筒状花の説明から始まり、合弁花と離弁花の説明をして頂きました。キク科のタンポポは一見すると離弁花と思われるのに、合弁花である説明を明解にして下さいました。「めしべの柱頭運動」についてはムラサキサギゴケを例にして、鮮明な写真を用いて、めしべの先端が開いたり、閉じたりする運動があることを紹介して下さいました。植物という静的な生き物の動的な側面が垣間見えて、植物に対しての好奇心が刺激されました。

次にハコネギクの説明をして頂きました。ハコネギクの写真には総苞にゴミのような物が写っていました。高杉さんが「これはゴミではなくアリです。アリが総苞にくっついて動けなくなったと思われます。このアリの存在から総苞にはネバネバした粘液があると推測されるため、この花はハコネギクと分かりました。」と教えて下さいました。何か分からない植物に出会ったとしても、写真を撮り、記録を取っておくことで、時間が経ってからも植物の同定が出来ることがあると説明して下さいました。

昼食後は、敷地内を散策しました。途中でウリカエデ、ヘビイチゴ、タラノキ、ガマズミ、



等々、様々な植物に出会い、気持ちよく散策出来ました。高杉さんから「この植物は何かと聞かれたら間違っても良いからとにかく名前を言うてみるのが大事、もし間違った名前を言ったとしても、その間違った名前の植物について皆が知識を得られる。」とお話がありました。つい間違いを恐れて口をつぐんでしまうことが有るので、観察会をより活発なものにするためにも肝に銘じておこうと思いました。

今回の研修も大変、学びや気づきの多い研修でした。高杉さんや研修を企画して下さいました方、一緒に参加したメンバーの方に感謝いたします。この研修で得たことを糧に、今後も植物観察を重ねていこうと思います。